



「フランクフルト独日協会より来訪」



「フランクフルト独日協会クノープラオホ氏と二人の高校生 Sebastian 君と Laura さん詳細記事は2頁」

例会が取り持った嬉しいお知らせ

副会長 黒崎 稔



「贈呈式: Mrs. Yumiko Bruce-Gardyne 氏とユーデック理事」

昨年 11 月 3 日文化の日に横浜日独協会のユーデック理事が東日本大震災の復興支援の為に立ち上げた「どこでもエコカープロジェクト」を応援する為に大島富士子さんのソプラノ独唱・遠藤香奈子さんと和歌子さんのヴァイオリンとピアノの二重奏を大倉山記念館にて開催させて戴きました事は皆様ご存知の通りであります。

そのコンサートに来られていた小生の先輩である小笠原啓倫さんのご長女 (Ms. Yumiko Bruce-Gardyne) がイギリス人とご結婚され現在ロンドンにお住まいですが、彼女が海外に在住する日本人としても東日本大震災の復興を支援したいとの気持ちからロンドンで寄付金を募ったところその額が 36 万 6 千円に達し、ご両親にどこに寄付すれば良いかとのご相談があり、ご両親は「どこでもエコカー」プロジェクトを支援するのが最善とご判断され小生にお話が合ったものです。ユーデック理事も大変喜んでおられ 3 月 17 日の例会に先立ち贈呈式を行ないました。(P2 へつづく)

輝け、平家・海軍・国際派！

横浜日独協会会長 早瀬 勇

日銀総裁に財務省で国際派だった黒田さんが就任しました。国際経験を生かして、焦らず、優れたバランス感覚での舵取りを期待します。

「平家 海軍 国際派」という題の随筆集（法人会員の文芸社が 2003 年発行）に依れば、この表現は朝日新聞ロンドン特派員だった白井健策氏が 1970 年代に“日本では平家と海軍と国際派は出世しない”といったのが始まりのようです。平家・海軍・国際派は、スマートだが淡泊すぎて粘りが無く、力で反対派「源氏・陸軍・国内派」を押さえ込むのを好まないというのです。

これまで日本の組織の中枢が殆ど「源氏・陸軍・国内派」によってガッチリ抑えられて来たといわれています。彼らは野暮ったく派閥を作り、自分の組織を守るためには理不尽を平然とやってのける。第二次大戦でもそうでした。海軍は兵学校で外国語を学んだスマートな将校が外国の新聞を読んでいて、“米国の兵器はここまで進歩している。日本は勝ち目が無い”と主張しますが、陸軍は“皇国陸軍は神国の大和魂で鬼畜米英を駆逐できる”と精神論で押し切る。そして最後は日本刀を腰に下げて天皇陛下に直訴する。海軍はとてついてもついていけなかった、とテレビの終戦秘話が伝えています。

現代でも欧米の優位な現状を知っている国際派は、国内の過剰な規制や既得権を指摘して競争力強化を促しますが、既得権益を享受している国内派は現状にしがみつくとするのはどうも確かなようです。

しかし、世の中がここまで国際化してきましたと、国内派にも頑張りきれない部分が出てきました。経済界では企業財務がまず国際化しましたね。財務内容が不明な企業に外資は投資しません。社内監視体制もどんどん国際化されています。でもまだ、有名な光学器メーカーのように、内部に潜んでいる不正を隠し上司をかばう部下が後継者として出世するという旧弊がまだわが国には見られます。”内視鏡“が必要ですね。財務官出身の黒田総裁が海外の通貨マフィアと電話で話していても“キザなやつだ”とやって足を引っ張る国内派はもういないでしょう。輝け、国際派！

法人会員

株式会社文芸社・ウインクレル株式会社・ポッシュ株式会社・フェリス女学院大学
モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合・株式会社テレビ神奈川・公益財団法人登戸学寮

「例会が取り持った嬉しいお知らせ」 p 1からの続き

また運よくお嬢さんも里帰りされておられたので贈呈式にご出席戴きました。

横浜日独協会の日頃の地道な活動が取り持った素晴らしい結果であり皆様にお知らせする次第です。

なお、この贈呈式の模様は3月17日のテレビ神奈川で放映されました。ご覧になれなかった方々の為に4月の例会か5月の総会の前にビデオを見て戴く予定です。

ロゴ決定



大島レオナルド氏

前号で会報 Der Hafen の表題のデザインを募集いたしました。会員大島レオナルド氏の案が採用決定され、数度の打合せの結果今回の会報から採用することになりました。

<年会費納入のお願い>

4月より新年度になりました。

- ・年会費 個人会員－3000円
家族会員・学生会員－2000円
- ・銀行口座 横浜銀行横浜駅前支店(店番:383)
普通預金口座 6052634
- ・口座名義
横浜日独協会(ヨコハマニチドクキョウカイ)
詳細は会報に同封のご案内をご参照ください。

新法人会員紹介

「公益財団法人登戸学寮」

公益財団法人登戸学寮は、首都圏の学生に聖書を学ぶ環境の中で有為な人材を育成することを目的とする学生寮で、定員は男子寮24室、女子寮14室です。寮の設立は1958年(設立発起人:黒崎幸吉)で、卒寮生は五十年余で六百名弱に達します。
〒214-0032 川崎市多摩区柘形 6-6-1(小田急線向ヶ丘遊園駅徒歩7分)
公益財団法人登戸学寮 044-933-0819
noborito@gakuryo.or.jp
<http://www.gakuryo.or.jp>

フランクフルト独日協会から来訪

フランクフルト独日協会が中心となって行われたフランクフルト地域の高校生を対象にした日本に関する作文コンクールの優秀者2名が、クノーブラオホ事務局長に伴われ来浜しました。

共に1996生まれの17歳、Sebastian Jahr君とLaura Kristin Eckさんです。セバステイアン君は会員の南雲貞孝・淑子さん、ラウラさんは会員能登美紀子さん宅にホームステイしております。日程は次のように予定されています。



- 3月25日 東京着
- 26日 京都滞在
- 29日 横浜着 それぞれのホームステイ先へ 能登事務局長がアテンド
- 30日 能登(崇・美紀子)さんが鎌倉。江ノ島方面案内
- 31日 南雲淑子・貞孝さんが横浜市案内
- 4月 1日 南雲淑子さんが箱根方面案内
 - 14時 クノーブラオホ事務局長と横浜日独協会早瀬会長、黒崎副会長他による打合せ会
 - 17時 歓迎会
- 2日 能登八祢子さん・崇さんが横浜案内
- 3日 高橋勝義さんが東京案内
 - 18時 早瀬会長宅でホームステイ受け入れ家庭の皆さまを含めての食事会
- 4日 午前 南雲様宅にて着物を着てのお茶会の体験・午後 横浜市訪問
- 5日 ドイツ大使館訪問
- 6日 帰国

日本滞在の模様並びにお二人に関しての詳細は次号(6月)に掲載致します。また、お二人の作文にご関心をお持ちの方は事務局までご連絡下さい。原文を用意しております。

ホームページへの協力者募集

横浜日独協会のホームページのさらなる拡充のため会員の皆さまから協力頂ける方を募集しております。経験のある方は勿論関心をお持ちの方、ホームページの運営(企画、作業)に参加してみませんか?

ドイツ映画（3月例会）

「善き人のためのソナタ」 について



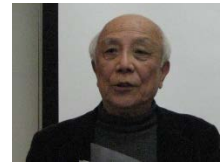
会員 長谷川宏有

3月例会で観賞したこの映画の中には多くの伏線のある緻密に構成されたものでした。その伏線を2つばかりあげますと1つ目は主人公ゲルト・ヴァイスター大尉（以下大尉と記す）は国家に尽くすのが自分の道とこれまで思っていたのが作家ドライマン（以下作家と記す）と演劇女優クリスタ（以下女優と記す）との真善美を追求する芸術家同士の自由な語り、お互いの愛を確かめ合うも現実の生活に心から悩み抜いている生き様を盗聴を通じて知るにつけ国家に尽くす信念がゆらぎ始め悩み出したある日バーでウヰカをあおっているとそのバーに入ってきた人が盗聴している女優その人であった。大尉はたまたま女優の席にゆき、「あなたは俳優を辞めてはいけない。国家の為ではなく国民の為に演じなさい。ファンの為に尽くしなさい。全国のファンがそれを期待していますよ」という。見ず知らずの男から突然悩みの本質を指摘され女優は立ち去る。しかし後にこの女優を訊問しタイプライターのありかを白状させようとする大尉の訊問の中にこのファンという言葉が出てきて女優はハッとバーで会った男だと悟る。この時の尋問者大尉と女優の目を見つめ合い心の中を探り合う息詰まる迫真の演技は圧巻。この伏線のキーワード「ファン」が鑑賞者によくわかるようにと、尋問室の外から聞いている盗聴部長にわざわざ「尋問になぜファンのような言葉が出てくるのかへんだなあ」と言わせている。この場面ではたして何人の鑑賞者がにやりとほくそ笑んだことだろう。2つ目の伏線はタイプライターの赤テープである。東ドイツ国家が隠している自殺の多さに関する資料を西側の雑誌に載せる為西側の記者が持ち込んだ赤色テープ付きタイプライターでタイプした記事が西側の雑誌に掲載されたが、さすが警察国家その記事原稿を入手しようも作家が国内にはないはずのタイプライターを隠しているに違いないと盗聴部長が自宅捜査をさせたが見つからず。同居の女優を大尉に訊問させ白状させた隠し場所一廊下の床下を再度自宅捜査するもその床下にはなかった。大尉が女優を救うため先に床下からタイプライターを取り出し隠すが作家には誰が助けてくれたかわかわずじまい。その後秘密警察国家が崩壊、自由の身となったがこの時以来作家は創作意欲を失う。その後資料図書館で自分の名前の資料を通読。自分の家がすべて盗聴されておりその現場責任者が大尉であったことを知る。更に大尉の報告書を読み進め最後の報告書は“報告すべき事項特になし”で終わりその頁の右下に赤テープの赤印の跡がついていた。この赤い染みを見てあの日タイプライターを隠し自分と女優を救ってくれたのが大尉であったと初めて知る。これをきっかけに又作家の創作意欲も戻り小説

を書く。この本が本屋に山積みされるほどベストセラーとなり本屋の前を通る大尉が窓に張られた本の広告の著者名に目をとめる。ちょっと躊躇した後本屋に入りこの本を買った大尉がそっと表紙の次の頁を開く。題名の下のカギタイトルに“大尉（HGW）のために…”の文字を見た大尉の顔のなんと素晴らしかったこと。この映画の最後のこのシーンが胸にジーンときます。本当に素晴らしい映画でした。

2月例会講演会

「ハンス・ホッター：人と芸術」 に出席して



会員 磯貝喜兵衛

2月17日、吉野町市民プラザで行われた講演会では、歯科医で歌手の森文彦氏が、ドイツの名バリトン歌手、ハンス・ホッター（1909～2003年）についての思い出やご自身の体験を、録音、録画などをまじえてお話になり、興味深く拝聴しました。

ハンス・ホッターといえば、フィッシャー・ディースカウ（1925～2012年）と並び、日本でもファンの多い巨匠ですが、森さんは小学生時代にホッターが歌う「冬の旅」のレコードを聴いて感動をおぼえ、大学受験期もその歌声に毎日聞きほれたそうです。

新宿厚生年金会館ではじめて肉声を聴いたときは「ヴォータンが出て来たような感じでした。」といい、歯科医師になったあともその“追っかけ”ぶりはやまず、晩年の20年間は個人的な交流を通じて「人間としての生き方まで教えられた。」とのこと。

初対面がかなったときは、それまで何回かの手紙のやりとりがあったのに、Fumihiko（文彦）のkoを日本名の「子」と勘違いし、「女の子とばかり思っていた」とホッターが爆笑したエピソードも披露されました。



森文彦氏

2001年、日本や世界の声楽家や、それを目指す学生たちがホッターの指導を受ける「マスターコース」に参加したときは、直々の歌唱指導を受け、「フレーズの最後まで歌い切れ！」「出来るだけレガート（なめらか）に」などきびしく教えられたと、当時を回想されていました。講演の最後に、ホッターが最晩年の2001年に若いドイツの歌手たちを指導する場面が映写され、その情熱的な指導ぶり

にホッターのドイツ・リートにかける思いの一端にふれることが出来ました。

そして、ホッターの『回想録』に出てくる作曲家、リヒャルト・シュトラウスの言葉：「リートを歌う時、聴衆に直接話しかけるようにしなさい。物語を話して聞かせるように。」「決して言葉を音楽から分けてはいけない。」などの名言も森さんのお話に出てきましたが、これらは私たちアマチュアが合唱をする際にも大変示唆に富んだ言葉であり、印象に残りました。

zwischen zwei Kulturen

会員 大島レオナルド

日本とドイツ文化の間に同時に存在するのは多くのメリットがあると思う反面、難しい時も勿論あります。この間会社のミーティングで日本人とドイツ人の上司の間に座り、用件に関して意見を言うべきか黙るべきか悩んでしまいました。ドイツでは意見を言えない者はリーダーにもなれないという考え方ですが、日本では直接聞かれない限りあまり自分から発言しない方がいいと言われてます。その間の道をどんなに細くても見つけるのがやっぱりチャレンジ点ですね。

Ich bin der Meinung es hat viele Vorteile, zwischen der japanischen und deutschen Kultur zu Leben - jedoch kann dies freilich ab und zu kompliziert sein. So saß ich letztens im Meeting zwischen meinem japanischen und deutschen Vorgesetzten, und konnte mich nicht entscheiden, ob ich mich zum Thema frei äußern oder eher zurückhalten sollte. In Deutschland herrscht die Meinung, dass Leute die ihre Meinung nicht äußern können für Führungspositionen nicht geeignet sind. Mir wurde in Japan andererseits nahegelegt, nichts zu sagen solange ich nicht gefragt werde. Die Herausforderung liegt wohl darin den - wenn auch noch so schmalen - Mittelweg zu finden.

会員名簿発行について

設立3周年目にあたる今年、多くの会員からご要望のあった「横浜日独協会会員名簿」が完成致しましたので、4月中旬頃にはお手元に届く予定です。

- ・基準日 2013年3月31日
- ・ページ数 表紙を含み8ページ

なお、名簿の取扱い等につきましては、名簿に綴じ込みの口上書をご参照ください。

横浜日独協会会報

発行 2013.4.1 (第13号)

事務局：〒223-0058 横浜市長北区新吉田東 2-2-1-913

能登 崇 方

Tel & Fax: 045-546-0801, e-Mail: tak_noto@yahoo.co.jp

会報編集責任者 大久保明

e-Mail a-okubo1926@ttmy.ne.jp

横浜日独協会ホームページ

URL: <http://jdgy.sub.jp/index.html>

行事予定

4月例会

講演：「私たちの知らない紅茶の秘密とその味は？」

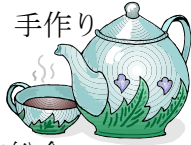
講師：鈴木和江氏 日本紅茶協会認定インストラクター

日時：4月13日(土) 午後3時～5時30分

会場：ワールドポーターズ6階 会議室①+②

会費：例会—1000円、懇親会—500円

日本紅茶協会認定のインストラクターをお招きして、紅茶の秘密を探ります。美味しい紅茶の入れ方始め紅茶のお話を聞いた後は、手作りドイツケーキをお楽しみ頂きます。



5月例会

日時：5月18日(土) 午後13:30～ 定時総会

午後14:30～ 講演会

会場：ワールドポーターズ 6階 会議室③

<総会案内> 第4回定時総会を開催致します。多くの会員の皆様のご出席をお願い致します。

- ・議題： 2012年度活動状況並びに決算報告
- 2013年度事業計画並びに収支予算案
- 役員選出・その他

講演：「日本のものづくりの現状と今後を論じる」

—航空機、エネルギー、環境、マイクロ・ナノの分野で先端技術研究開発型企業の経営に長年携わった経験に基づいて—

講師：神永晋理事 住友精密工業株式会社顧問(前社長)

会費：例会—1000円、懇親会—500円

6月例会

講演：ドイツに学ぶ—教育、政治、尊厳死—

- ① 戦後の反権威教育の弊害と是正、② 地方の声を参議院に、③ 尊厳を保つ終末医療など、ドイツとの比較で明日の日本を考える。

講師：早瀬 勇会長 (前金沢星稷大学学長

石川日独協会名誉会長)

日時：2013年6月15日(土) 午後3:00～5:30

会費：例会—1000円、懇親会500円

会場：ワールドポーターズ 6階 会議室③

編集後記

・素晴らしいロゴが出来上がり編集にも新たな気持ちで取り組んでいます。文字は旧い通称ヒゲ文字あるいは亀の子文字などと言われています。年配の方には懐かしさ感じることでしょう。ポर्टベルの中に港の文字が浮かび、デアーハーフェン片仮名のルビが非常に新鮮に感じられます。大島氏に感謝です。加えて、予てより構想を温めていた、若い会員による発信の場を設けました。今回大島氏に快諾頂き日独語による短文(twitter的な)のご寄稿です。連載を考えています。勿論他の会員からの投稿も歓迎します。(大久保)

・心配していた会報の独自のヘッド・ロゴが大島さんのお蔭で出来上がり、「zwischen zwei Kulturen」の連載も始まりました。2か国語で書かれているので、ドイツ語も頑張ってみようと思います。(山口)